

コミュニティ くまっ

私と人とまちの間に

2015.NOV
107号 11

編集発行

公益財団法人 草津市コミュニティ事業団

もくじ CONTENTS

FEATURE

まち時間・じぶん時間

- 2 ところに美味しさ! 1000円居酒屋
- 3 おはよう! 100円モーニング
- 4 種を蒔く。未来を耕す。
- 5 ご近所さんをつなぐラジオ体操
- 7 ご近所まんが くさつがわ家とお隣さん ~これって、みんなの問題~
- 8 みんなとめん・めん ワクワク!ドキドキ!「パワフル交流・市民の日」
- 9 より道こ道 「急がば回れ 矢倉橋」
- 10 事業団からのお知らせ
- 11 見つけてスッキリ! / ボイス
- 12 熊谷栄三郎の徒然草津 第19回 ワシも泣く

夢の舞台へ

草津クリアホールでは来年3月公演予定の市民創作ミュージカルに向けて厳しい練習が繰り返されています。オーディションによって選ばれた63名による草津歌劇団は本番で素敵な舞台を創りあげるため残暑厳しい時季から約半年の稽古に挑んでいます。

山の芽吹きころの様子を、山笑う。緑の濃淡の夏ころを、山滴る。葉っぱが枯れる冬の訪れを、山眠る。そして紅葉で色とりどり秋は、山粧う。人と自然の近さが生み出した先人たちの言葉に日本人の豊かな感性を感じますね。さあ、この秋、あなたはどのように粧いますか。

FEATURE

こころに美味しさ！

1000円居酒屋

宅老所心

駒井沢町。昔ながらの住宅が並ぶ一角に、ひととき歴史を感じる一軒のかやぶき屋根。でも忘れ去られた様でなく、手入れが行き届いた様子が素人目にもわかります。中に入ってみると、すす竹の黒光りした天井、木目がまっすぐ奥へと続くフローリング、これまた木目調の大きな2台のテーブルといった落ち着いた設え。どこか懐かしくて新しい。民家のようなお店のような。

イメージ



構えんでもええ 近所つきあい

「かんぱい！」

冷えたビールで喉を潤した5人の男性。かつて地区別対抗ソフトボール大会で駒井沢チームとして出場したのを縁に40年経った今もつきあいが続いています。「みんな昭和40年代に駒井沢に

引越してきた連中。仕事をしていたころは帰りも遅く、子どもをお風呂に入れてもらったりと自分よりも子どものことを知って

てくれていました」「こうして集まれば健康や病院の話など他愛

のないことが話題にでます。今はみんな何かしら地域のポラン

ティアをしています」「ここへは『ちよつといつてくるわ』と家

族に言っ出てきます。近くだからタクシーを呼ぶ必要もないし、

気楽な仲間と一緒だから堅苦しい話もない。構えんでもええの

がいちばん」「気心の知れた仲間をつくるうなんて思っても、そう簡単

につくれるものじゃない。こうした仲間と過ごすときは人生で大事

な時間」「取材に答える度に昔話や世間話に花が咲きます。さつ

きまでスリッパで遊んでいた癒し犬の「こころちゃん(トイプー

ドル5才)も、いつの間にか食事の時間です。」

老いていく母たち

今日は1000円居酒屋。その名のとおり1000円で食事とワンドリンクを楽しめます。もう少し飲みたいなと思う人は自分で持ち込みます。予約制で月2回開くこの居酒屋が始まったのは昨年9月のこと。実はこの家、「NPO法人宅老所心」の理事

長、村田美穂子さんの生家です。駒井沢で生まれ育った村田さん

ご自分の母親や小さなころからお世話になった近所の人たちから

老いていく姿に、「高齢になって自分らしく暮らせるまちに」

とこの自宅を「宅老所心」としてサロンを開きました。

また、これをきっかけに2004年には同NPO法人を設立、この

場所で小規模多機能型居宅介護事業を始めましたが、その後、

近くに事業の新たな拠点を移しました。残ったこの思い出深い生

家は引き続き「宅老所心」として、近くの高齢者が井戸端会議

のように気楽に集える場所として、また高齢者の暮らしを支える

地元のボランティアグループの拠点として開放しています。

「囲碁健康マージャン・カラオケ・映画会など、やりたいときに使ってもらえるよう、ここには



理事長 村田美穂子さん



今日集まった面々(左から)
藤本哲雄さん・一丸寛彦さん・野口久彦さん
北川正さん・平田文昭さん



いつか故郷で

こんな話を聞いているうちに、テーブルの上には次々と手づくりの料理が並んでいきます。この日は7品。「サラダ・揚げ物・小鉢など、季節の物を取り入れながらメニューを考えています。地元の方から野菜をいただくこともあります。おいしいと喜んでもらえることがうれしい」とは調理担当で台所に立ちっぱなしの井上洋美さん。隣の男性陣は美味しい料理と楽しい会話で盛り上がってきました。

村田さんは言います。「高齢者にとつて福祉の制度を整備することはとても大切なことですが、

高齢者が地元で暮らすには制度だけでない、大切なものがあると思うんです。認知症の人や徘徊する人への対応、高齢者の暮らしを支えるボランティア活動など、色々なことを話し合え、支えるためのつながりが生まれてくれたらと、この居場所を開いています。いつかこの家をそんな場所にしたいたいと昔から決めていて、かやぶき屋根も大切に守ってきました。

私は故郷のこの場所で始めましたが、草津市内でも空き家ができつつあると聞きます。ここだけでなく、草津の色々なところに地域の人が集まる場所が増えればいいですね。ここは高齢者だけでなく、地域の人たちや高齢者を支える人たちをつなげる場所でもあるんですね。

「ここは草津の軽井沢、いやいや駒井沢です。それくらい住んでよいとこってこと!」すでに舌好調になっていた男性陣の一人が言うと、「皆さんは後片付けのことも考えてちゃんと予定時間の前に切り上げてくれるんです」と村田さんは絶妙な掛け合いを見せてくれました。そろそろお開きの時間ようです。

癒し犬の“こころ”ちゃんも、スースーお眠りです。

おはよう! 100円モーニング

橋岡会館

おはようございます。昨日はグッスリと眠れましたか。さて、今日の朝食は美味しかったですか。どこで誰と何を食べましたか。どんな会話を楽しんだのでしょうか。

パンにコーヒー、サラダにゆでたまごとくれば喫茶店のモーニングでよく見かける朝に嬉しいメニュー。美味しそうです。

でも、ここ…喫茶店じゃないんです。

橋岡会館では今年2月から「100円モーニング」を始めています。毎週、高齢者が参加する百歳体操の後に月1回開かれています。参加費はその名のとおり100円、ワンコインです。材料費のみ、赤字を出さないぎりぎりのライン。開催当日は8時半にもなると職員と、いつも百歳体操に参加する4人もボランティアメンバーとして加わり、準備が始まります。こんなところにも“100円”の秘密が隠れているのですね。



高齢者が中心、いやほとんどということもあって、味や見栄えだけでなく栄養や食べやすさにも心配りが見えます。今日のポテトサラダがほのかにピンクなのは摩り下ろしたニンジン。食欲の落ちる夏場には少し酢を加えるなどの気遣いも忘れません。



ゆっくりと百歳体操で体を動かし、体も気分も軽やかになったところで、楽しみにしていた朝食が始まります。この日の参加者は18人。大きなテーブルを囲み、さながら大家族のようです。「こっちやで、ここの席に座りや」と92歳の最高齢者を気遣う様子がなんとも温かい。「利用者は誘い合って来てくれるし、安否確認や健康状態もよくわかります。高齢者が引きこもりにならず、地域とつながる方法の一つとして、この100円モーニングに期待しています」と館長の三上さんが話します。

ご存じ、100円硬貨には桜花が刻まれています。サクラの花言葉は「精神の美」だとか。孤立しがちな高齢者同士が会話を楽しみながら食べる100円モーニングに美しい精神を見せていただきました。



* 常盤東総合センター・新田会館でもモーニング事業が行われ地域のつながりづくりが行われています。開催の曜日や時間、料金などは異なります。

種を蒔く。未来を耕す。

老上ふれあい農業合校がっこう

遠くまで広がる田畑は美しく、どこか懐かしい日本の原風景。ところが最近では耕作放棄地が増え、草ぼうぼうで荒れた土地も多くなりつつあります。でも農業は本来楽しいもの、素晴らしいもの。「農」を通じて、まちの子どもの学びや大人たちのふれあいを育む老上ふれあい農業合校の15年を、合校長の小寺一久さんに聞きました。

バケツで育った稲

「働きづめだった」と振り返る現役時代の小寺さんは、ほとんど地域のことを知りませんでした。定年退職と前後してまちの役員になり、まちの様々な表情を目の当たりにして、まちのこと、そして、そこにはたくさん素晴らしい人たちが暮らしていることを教えられました。学校は週5日制になり、世間では塾通いの過熱ぶりや子どもを巻き込む物騒な「ニュー入まで流れ出す時代」になっていました。

自然とともに生きている

さんはこの光景に違和感を覚えました。「子どもたちに本当の米づくりを知ってもらいたい。野菜だつて苗植えから収穫まで体験させてあげたい」

老上は豊かな田園が広がる土地柄です。役員になったことで知り合った仲間や小学校近くの農家の人たちと協力して立ち上げたのが老上ふれあい農業合校です。子どもたちのために6000㎡の田畑を農家から借りました。

農が育むコミュニティ

間の作物の世話や子どもたちが体験する際のサポートをします。「裸足で田んぼに入り、グニャッとした泥の感触にはしゃいでいる子どもたちの姿を見ているとうれしくなります。廊下に並べたバケツと違い、田んぼや畑には力エールやへじも、バツタやトンボまで色々な生き物との出会いがあります。子どもたちは、人も自然とともに生きていることや季節のめぐり、旬の美味しさなど、たくさんさんのことを肌で感じながら学んでくれます」と小寺さん。

定年、そして自分のまち…。「子どもたちに自分たち大人は何ができるんだろう」漠然と思いはじめたころでした、小学校の授業の様子を知ったのは。

5年生になると総合学習で米づくりを学びます。学校では稲がバケツで育てられ、廊下に並べられていました。「これでは理科の観察…」兼業農家でもあった小寺

まいった約20人のメンバーがその

子どもたちの学びからスタートした老上ふれあい農業合校ですが、今では大人たちのふれあいにも「役買つています。一坪農園です。住宅地に引っ越してきた人や時間に余裕ができた人の「家庭菜園をやってみたい、花を育ててみたい」という気持ちに添えています。一坪農園を通して自然と触

合校長
小寺一久さん





FEATURE

♪ 背伸びの運動から、ハイッ ♪

ご近所さんをつなぐラジオ体操

平井西町

朝、とある街角のパン屋さんの店先で宮島さんと立ち話。わずか10分弱の合間に「おはよう」と挨拶を交わしたご近所さんが数人。当たり前のような光景だけど、どこか気持ちいいものです。これも、あのラジオ体操のおかげ、かな。

♪ 背伸びの運動から、ハイッ
朝の清々しい空気に包まれ、ラジオ体操のおなじみの声が町内の公園に流れます。ラジオ体操と

まちの日常風景

いと子どもたちの夏休みのイメージがありますが、ここ、平井西町児童遊園にはスタンプ台紙をぶら下げた多くの子どもたちが止み、子どもたちがスタンプを

押すための行列ができる一方で、あちらこちらで大人たちの談笑が始まりました。子どもたちの姿が少なくなったころ、大人たちは談笑を続けながら草むしり。「このまま地域清掃？」と思

きや、それもわずから5分で終了。挨拶を交わしながら家に帰る人、連れだつてウォーキングに行く人、自宅の前を箒で掃きはじめる人……ここまでわずか30分の光景は、年間を通じたこのまちの日常

れ合うなかで、自然と会話も生まれてきます。たくさん収穫できた時にはお裾分けや物々交換をしたり、仲良くなつて一緒に旅行や食事などに行く人たちもいるとか。ここでは「農」や「土」を通じたコミュニティが深まっています。

農園の利用者だけではありません。ふれあい農業学校のメンバーも互いの技術を教え合つて新しい発見をしたり、会話の中からまちの色々なことを知つて別のボランティア活動を始めたりと、人と人、人とまちのつながりが広がっています。



「農業は子育てに似ています。手間暇をかけた分、正直に結果を出してくれます。ベテランの先輩からは『植物と会話ができるようになれ』と教わったものです。過保護すぎず放置もせず、いつも植物と会話しながら必要なこと、できることをしてやる。いや、自然の力、植物の力つてすごいですよ」と小寺さんは教えてくれました。

「農」を真ん中に、子どもと大人のふれあい、学び、大人同士のつながりを育む老上ふれあい農業学校は、土だけでなく、まちの未来を耕しています。さあ、あなたも種を蒔いてみませんか。





です。宮島三さんと山本公子さんにお話を聞きました。

人と出会うのは心に良いこと

山本さんは日々、このラジオ体操をノートに記録しています。

その日の天候や気温、参加者数にちよつとしたメモが記されています。それによるとこのラジオ体操は夏だけでなく一年を通じて雨の日以外は毎日行われ、30名ほどが参加しています。10cmの積雪も、マイナス1℃の寒い日も気にしません。始まったのは2年前の11月2日。そういえば公園の端っこには、今日が538回目を伝える看板がありました。ちなみに500回記念となつた7月にはみんなで記念撮影をしたとか。また毎週金曜日にはそのまま公園の5分間草引き。取材した日はちよつと金曜日でした。

このラジオ体操、きっかけは宮島さんが首の手術をしたことでした。術後、ホームドクターから「ラジオ体操は体に良い

こと、人と出会うのは心に良いこと」と言われたことを近所で立ち話したところ、「近ごろ私も運動不足だね。やりますか!」とごくごく自然な流れで始まったとのこと。

毎日とちよつとした

「たかがラジオ体操」と侮るなかれ。一人ひとりの健康を支え、生活のリズムを刻むだけでなく、毎日することでもまちなにも効果をもたらしています。それはつながりづくりと安否確認。この平井西町も高齢化が進んでいますが、体操に参加するメンバーにも独り暮らしとなつた人が数人いるとか。気がつけば「日中、誰とも会話をしない日がある人もいます。毎朝、体操をしてご近所さんとのちよつとしたおしゃべり。この「毎日」と「ちよつとした」がポイントのよつです。

「毎日みんな大体決まつたポジションで体操しているんです。自然と横の人と会話が生まれる。安否確認にもなりますし、健康状態だつてわかります。何より『おはよう』と声をかけ合うだけでも『来てよかつた』と思うんです。参加者の最高齢は92歳ですから、私も『しんどい』なんて言つていられませぬ」と宮島

さんは言います。「これまで〇〇さんのご主人なんて呼んでいた人とも、普通に挨拶、会話が生まれるようになりまして。町内に変化が出始めたような気がします」とは山本さんの弁。

重くしない。ぐんぐん自然体で

「毎日」と「ちよつとした」：その辺のコツを山本さんに聞きました。「とにかく重くしないことです。この会には役も当番も会費もありません。それどころか会の名前すらありません。誰でも参加OK。町内外の人も歓迎です。会の名前をつけて活動費や補助金をもらつたりすると、町内以外の人はダメとか制限が入つたりするでしょ。私は毎日、ラジオ体操を持っていく係だけ、それは家が公園の前だからというだけ。引つ張る人と支える人がいれば回るものです。あとはごくごく自然体で重くしないことが長続きする秘訣だし『あそこに行けば誰かいる』という安心感みたいなものをももしいです」なるほど、ナットクしました。



この日の参加者に知り合いを見つけました。「毎日しているでしょ。これに参加しないと体から悪いものが出ていけないよな、なんか気持ち悪いのよ」「このラジオ体操は、一日の句読点なんですよ」今朝も平井西町児童遊園にはラジオ体操の音楽が流れます。

ト背伸びの運動から、ハイッ

宮島一三さん



That's 談

まちのふれあい

「まちのふれあい」についてのつぶやき・エピソードを集めてみました。

- 堤防の草刈りをするとう県からの補助金があった。それをもとに夏祭りをしていたころがあった。
- お地藏さんをめぐるスタンプラリーをするなど活発だった。もう20年以上前の話。
- 子どもたちが塾などで地域のお祭りや運動会に参加しなくなったのが残念。
- 老人会に新しい人が入ってくれないので平均年齢が上がる。老人会の老齢化。
- 「ラジオ体操いいなあ」って思い、わがまちでも相談してみたら「田や畑をしていると休む間もない。朝からムリ」って一蹴でした。
- 自治会館はそろばん教室など貸室で地域の収入としていところもあると聞く。良いことだと思う。
- 子どもの頃はお寺でよく遊んだ。最近はヨガ教室などをするお寺もあるそうだ。
- 人がいてほんわかした場所・気分がリラックスできる場がたくさんできればよい。

くさつがわ家とお隣さん ～これって、みんなの問題～

かれこれ40年の「ふれあいタウン」。

どこにでもあるようなこの町で、今日も繰り広げられる今ドキご近所のちょっとなれた毎日。楽しくも少し考えてしまう。もしかして…これって、みんなの問題かも。



よ～い、ドン

町内会長のアイデアマンぶりに拍手を送りたいところですが、これは少し極端かも知れませんね。

さて、差はあるものの町内会には一年間にたくさんの行事があります。おまつりや運動会、文化祭など楽しいものから、防災訓練や清掃など住民の命や地域の環境を守るものまで加えると、それはそれはたくさん。初めて役員になった人は多かれ少なかれ、その多さにビックリするのでは。それぞれの行事には目的がありますが、町内会の行事ですから地域住民同士が顔を合らし、知り合い、交流することがその根っこにあるはず。となれば、「できるだけ多くの人に参加して欲しい」というのがホンネのところ。



ところがマンガのように、町内会を取り巻く環境も実情も色々です。なんとも歯がゆいですね。「なんとなく続いている行事なんだから、この際、止めてしまおう」なんて声も会議の席で聞こえてきそうです。もちろん、それも有り。だって町内会は住民自治、やるもやらないも自分たちで決められるのですから。ところがそう簡単にいかないのも町内会です。1～2年で役員を回している町内会なら、自分たちの代でこれまで続いてきた行事を止めるのも勇気がいるものです。なにより一度止めてしまうと、もしそれを復活させることにでもなれば、今以上のエネルギーが必要。それもなんだかなあ。



そこで、今ある行事を「みんなが参加しやすいように」少しずつ現状に合わせていくという方法も考えてみてはどうでしょうか。たとえば、マンガのように高齢者が多くて参加が少ないなら高齢者向けの種目を考えてみる。若いパパたちに参加して欲しいなら、思いきって火おこし競争や丸太切り競争、駅名あてりレーなど“パパがカッコよく見える”種目を考えてみる。人が集まらない行事なら集まる行事に折り込んでしまうなんて手もありそうです。町内会は住民自治、変えるのだって自分たちの自由です。こんなことを考えることから、あなたのまちの姿が見えてくるのかも知れません。



さく・com-com / え・まんじゅう

これってやっぱり、みんなの問題。



株式会社 三井田商事

JR南草津駅前に移転しまして4年目を迎えました。弊社は京都府下及び滋賀県下でOA機器を販売し、自社でメンテナンスしております。又、企業一般の方への水の宅配事業も展開しております。弊社も地域と共に発展したいと考え、**土曜出勤日には駅前及び会社周辺の清掃活動を実施**しております。今後も地域に貢献し、共に成長していけるよう日々努力して参りたいと考えております。

滋賀営業所 / 〒525-0050 滋賀県草津市南草津1丁目1-5
TEL:077-598-1611 FAX:077-598-1651

広告掲載募集

本誌への広告掲載を希望する団体または企業を募集します。ただし企業の場合は本誌の趣旨を理解した上で、物品やサービスの販売でなく、企業の地域貢献や社会貢献の周知に限りします。

- 1回1枠(名刺サイズ)5,000円
- 約57,000部発行(年4回)
- 市内全戸配布のほか、市内公共施設や銀行等に配架

● 申込み・問合せ ●
(公財)草津市コミュニティ事業団 ☎ 565-0477

まちセン登録団体も参加してまーす!



このイベントの参加団体は、会場全体のパネルの設置、テント張り、テーブルなどの設置など、前日からお手伝いをしています。イベント当日は草津市役所周辺が素敵な交流広場に早変わりです。

まちセン登録団体の私たちも協力しています。広く活動を知ってもらうことで、あなたの思いにピッタリな団体と出会えるかもしれません。一緒に活動できることになれば、よりHAPPY!! この小さな交流が草津いっばいに広がることを願っています。

❖ ステージ発表団体の声

数年前から参加しています。最初は人の集まりにくい場所にステージが設けられていたのですが、出演者と主催者が一緒になって改善に向けて努力しています。

出演者もイベントに合った内容の出し物の構成を考えたり、見ている人も楽しめる工夫をしています。ステージを何度も経験するほど、良いものになっているように思います。

いろんなところからの出演依頼にも、柔軟に対応できるようになり、私たちの活動もより楽しくなってきました。



❖ 会場内では…

ブース出展では、市内の任意団体やNPOの活動を広く知ってもらうことができます。活動の内容をパネルに掲示するのですが、文字ばかりでは読みづらいので、写真を載せたりポスターやチラシを作って、見てわかりやすくする工夫をしています。

パネルブースへ参加すると自分たちの活動を客観的に見ることができ、ステップアップするきっかけとなっています。



声をかけてくれた来場者と直接話す機会があるので、新鮮な発見や貴重な体験ができます。折り紙でホテルを折りながらホテルの豆知識を教えてくれるブースでは「〇〇に住んでんのか?ほな中ノ井川のホテル見れるやん!今度イベントあるさかい、遊びにおいで～」と声が聞こえます。会場内いたる所で情報交換や交流の輪が広がっていますね。

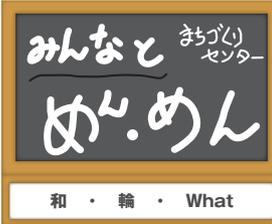
今年の「市民ふれあい秋まつり in くさつ」は11月7日(土)開催です。詳細は10ページをご覧ください。たくさんのご来場をお待ちしています。

みんなとめん・めん 通算48号

お問い合わせ先 ● まちづくりセンター ☎ 562-9240 ☎ 562-9340

✉ machi@kusatsu.or.jp

このコーナーは、まちづくりセンターの登録団体でつくる「運営協議会」が担当します。運営協議会では、それぞれ自身の活動から少し離れて「みんなの場所」としての、センターの役割やまちのことを考えながら、みんなで一歩ずつ成長する場所です。



ワクワク! ドキドキ!

パワフル交流・市民の日

運営協議会代表 宮下千代美さん

皆さんこんにちは。毎日、いろいろな出会いがありますね。特に自分とはまったく違う考えで活動をしている人と話してみると、良い刺激を受けますが、なかなか機会がありません。そこで紹介したいのが、毎年開催される「パワフル交流・市民の日」です。

皆さんこんにちは。毎日、いろいろな出会いがありますね。特に自分とはまったく違う考えで活動をしている人と話してみると、良い刺激を受けますが、なかなか機会がありません。そこで紹介したいのが、毎年開催される「パワフル交流・市民の日」です。



スマイ印刷は、自然環境を守る地球に優しい製品づくり「エコ印刷」に取り組んでいます。

SUMAI

株式会社スマイ印刷 sumaiprint.com

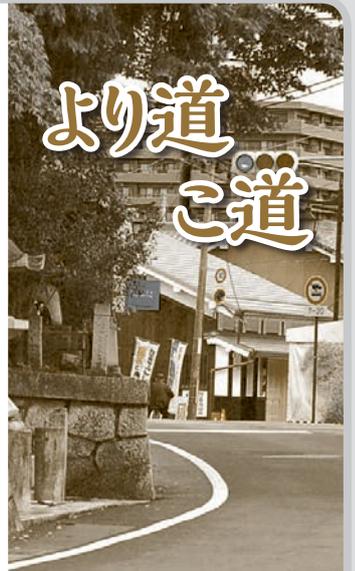
本社:520-3014 滋賀県栗東市川辺568-2 p:077-552-1045 f:077-552-0890
東京オフィス:103-0027 東京都中央区日本橋3-2-14 日本橋KNビル4階 p:03-5201-3525
甲賀水口ファクトリーPF1:528-0068 滋賀県甲賀市水口町ひのきが丘36-6 p:0748-63-1045

読売新聞

街の安心、安全、教育、環境を応援していきます。

草津五店会 TEL 077-568-2146

より道 こ道



「いつもの道、から
一歩それてみる。
大人にこそ寄り道の
時間が必要だ。」

第3回 ● 急がば回れ 矢倉橋

うばがもち跡へ

石田はま子

新草津川に架かる矢倉橋のたもとには広重の「東海道五十三次」と草津宿の絵図看板があります。絵図によれば、この辺りに草津宿の京側入口を示す黒門がありました。この黒門を境とした草津宿は街道沿いの間口により課税され

たといわれています。ここから宿の方を見ると湾曲していて先が見通せません。これが宿内防御のため故意に曲げた「遠見遮断」で、江戸側の入口でも見られません。

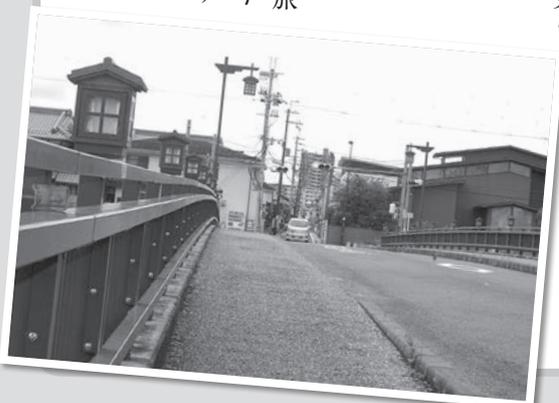
広重の浮世絵に目を移します。この名作には「うばがもちや」が描かれています。草津名物「姥ヶ餅」は広重の時代には矢倉で売られていました。看板のある場所から400mほど大津に向かって進むと瓢箪を扱う「瓢泉堂」があります。実はこの場所こそ江戸時代の「うばがもちや」跡です。玄関横にも大きな浮世絵の看板があり「勢田へ回るか矢

橋へ出よかここが思案のうばがもち」と詠われ賑わった様子が描かれています。俗謡に「勢田を回れば三里の回りござれ矢倉の舟に乗る」があります。瓢箪、竹根鞭など矢倉の名物を買い、矢倉道へと急ぐ旅人の姿が目に見えます。

矢倉港へは右に曲がって約3km。今となつては途中JRで分断されるところもありますが、回り道をしながら港跡へと旧道を歩く人たちが今も見られます。

右やばせ道
これより廿五丁
大津へ船わたし

と、舟で大津へと向かう旅人を案内した道標が今も瓢泉堂の軒先に残ります。浮世絵にも描かれている道標です。



せの耳鼻咽喉科

草津栗東医師会の一員として地域の健康をサポート！

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
午前診 9:00 ~ 12:30	●	●	●	●	●	●	—
午後診 4:00 ~ 7:00	●	●	●	OP	●	3:00 5:00	—

せの耳鼻咽喉科は、地域の健康づくりに貢献できる様日々努力していきます。

- ・耳鼻咽喉科一般診察
- ・日帰り鼻手術
(副鼻腔炎、鼻づまり)
- ・レーザー治療
- ・アレルギー免疫療法

OP...木曜の午後は手術のみ
インターネット予約受付

せの耳鼻咽喉科 検索

〒525-0023 滋賀県草津市平井1丁目19-6

TEL. 077-563-8741

ひとりで悩まないで！まずはお電話を！

くらしサポートセンターしが草津がお手伝いします



くらしサポートセンターしが草津

くらし何でも相談

TEL:077-564-5512

住所：草津市大路1丁目1-1 TEL: 932 4F406

センターへの相談は無料です。

- くらしサポートセンターしが TEL : 077-522-4600
- くらしサポートセンターしが大津 TEL : 077-572-7720
- くらしサポートセンターしが彦根 TEL : 0749-27-3500
- くらしサポートセンターしが近江八幡 TEL : 0748-37-5522

ひとまちキラリ ～まちづくり活動助成～

生き活きとこのまちで暮らしたい。
みんなの笑顔あふれるまちにしたい。
自分にできることで、まちや誰かの
役に立ちたい。
そんなあなたの想いを大切に助成
です。



- **立ち上げ支援部門** (団体の立ち上げ・新たに始めたい活動を応援)
2年間30万円以内 (1年目10万円以内・2年目20万円以内)
採択数 2～3団体
- **連携・協力部門** (複数団体が連携協力して取り組む活動を応援)
2年間50万円以内 (1年目20万円以内・2年目30万円以内)
採択数 1組

どちらも来年4月より基本的に2年間の活動を応援します。

申込締切 **11月27日(金)**

公開ヒアリング **12月13日(日) 9:30～12:30** 予定 まちづくりセンター
提案団体が行おうとする活動の内容を5分程度で発表していただきます。
見学だけでもOK!ぜひお越しください。

- 詳しくはまちサポ ● <http://kusatsu-spp.net/>
*助成金情報、ひとまちキラリまちづくり活動助成

子育て情報誌 ビースママ × 草津市コミュニティ事業団

いつチャレ

妊娠・出産をきっかけに家に
こもりがちになった方や、育児
や家事で忙しい方など、誰でも
いつでも何かチャレンジしてみ
たいということがきっとあるは
ず!とにかく前向きに一步踏み出すためのきっかけ
づくりとなるような講座を企画開催していきます。



ママのためのいつチャレ講座プロジェクト

- ① もう一人赤ちゃんがほしい! 助産師さんが提案する
前向きな妊活のススメ!
1月29日(金)
- ② 時間を上手に使いたい! 今のライフスタイルを見直
したい! お金を貯めたい!
2月5日(金)
- ③ 自分で何かをはじめたい! 仲間をつくりたい!
3月23日(水)
- ④ 資格をとりたい! 資格を活かした仕事がしたい!
4月27日(水)
- ⑤ 働きたい!新しいお仕事を見つけたい!
5月11日(水)

*場所はすべて草津クリアホール、時間は10:00から

市民
ふれあい
秋まつり

パワフル交流・市民の日

市民活動やボランティアをしている仲間が集まり
交流する、市民ふれあい秋まつり「パワフル交
流・市民の日」。

パネル展示・体験コーナー・模擬店・活動発表な
ど元気あふれる団体と一緒に楽しい時間を過ごし
ませんか。子どもから大人まで楽しめる「まちづく
りの祭典」です。

11月7日(土) 10:00～15:00 *雨天決行
草津市役所 1Fロビーほか



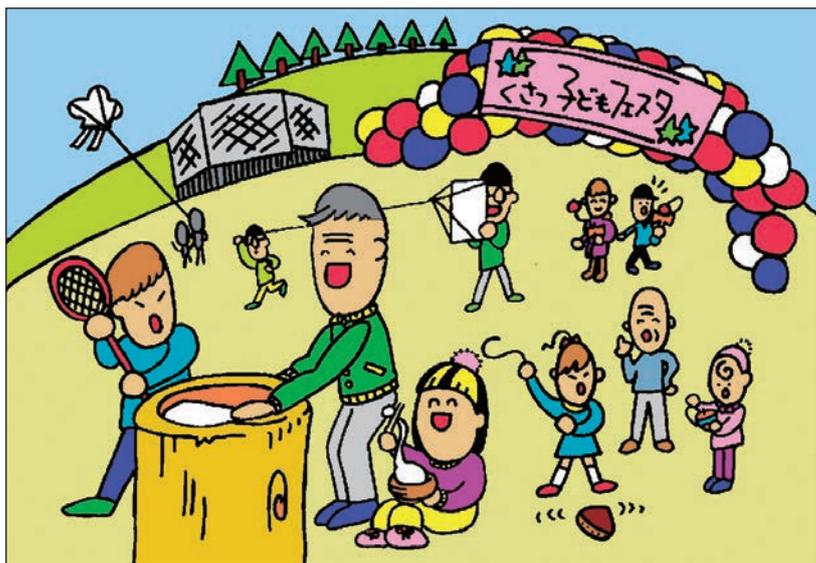
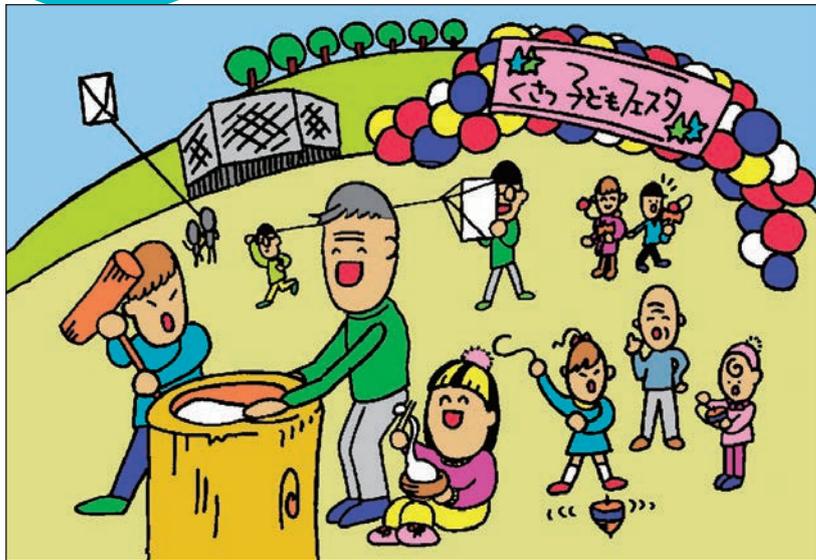
駐車場の台数に限りがありますので、公共交通機関または
お乗り合わせの上、ご来場ください。

- 上記の申込み・問合せはすべて ● (公財)草津市コミュニティ事業団 まちづくり振興課
〒525-0037 草津市西大路町9-6
☎565-0477 ☎562-9340 ✉com-com@mx.biwa.ne.jp

見つけてズキリ!

どっか ふるさと草津“変”

毎年、1月に開かれる「くさつ子どもフェスタ」は、たこあげ、コマ回し、もちつきなど、日本古来の遊びや食を通じて家族のふれあい、世代・地域を越えた交流が生まれています。寒い季節こそ外でいっぱい遊ぼう! 今回ははいよいよファイナル。新年1月17日(日)に野村運動公園グラウンドにて行われます。お楽しみに!
下のイラストには上のイラストとちがう部分が5カ所あります。まちがっている部分を答えてね。



イラスト：大村恵(編集ボランティア)

応募方法

ハガキに①答え②郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号③今号の感想を添えて下記まで。FAX、メールでのご応募もお待ちしております。

※切 11月15日(日) 当日消印有効

宛先

〒525-0037 草津市西大路町9番6号
(公財)草津市コミュニティ事業団「コミュニティくさつ11月号」係
✉ com-com@mx.biwa.ne.jp
☎ 562-9340

プレゼント

正解者の中から抽選で今年の夏に草津クリアホールで行われた「映像と音楽で届ける 金澤麻由子の絵本の世界」で紹介された絵本「ポワン」(作者の直筆サイン入り)を5名様にプレゼント。今年はポワンで素敵なX'masをどうぞ。

●ポワン (作・かなざわまゆこ)

牧羊犬ポワンは小さなバグ犬。自分だけが黒い毛をしていることに思い悩み、声を失ったポワンの心を救ったのは、「あなただから素敵」と教えてくれるおかあさん羊の歌でした。そんなとき、羊小屋が火事に。悲鳴とともに逃げまどう羊たち。お母さん羊は、そしてポワンは。



前回の 答え



たくさんのご応募ありがとうございました。

※ご応募いただいた内容は、プレゼントの発送および今後の誌面づくりに活用するほか、本誌への感想を一部誌面やHPなどで掲載させていただく場合があります。これ以外の目的で個人情報公表・利用することはありません。

ポイント

みんなの声と笑顔をお届けします。

「幸せ」と感じるとき



熊谷栄三郎の 徒然草津 つれづれくさつ

第19回

ワシも泣く

熊谷栄三郎



今日も初冬の青空が頭上に広がっている。自慢したい草津の広い空だ。見上げるうち、三年前の十二月の出来事を思い出した。その朝、なにやら異変を感じて、わが家の近くにある四階建てビルの上空を見上げたのが始まりだった。そこには、十数羽のガラスがぐるぐると不気味に舞っていた。

うち、二羽が交代で急降下しては、ビルの塔屋にとまっている大きな鳥に突つかかっていた。遠くて判然としないが、攻撃されているのは、ガラスの倍もありそうな黒っぽいやつ。太く長くちばしの先がぐいと曲がっている。眼光も鋭い、ような気がした。何度もガラスがすれすれに体をぶつけていくが、そいつは泰然として動じない。ガラスたちはあきらめて、去っていった。

ひらめいた。あいつはオオワシだ。つい数日前の新聞が「湖北の山にカムチャッカ方面から二羽のオオワシが飛来し、毎日、琵琶湖へ魚捕りに出かけている」と報じていた。

うん、そいつが草津まで遊びにきているのに違いない。うれしくて、知り合いの町内の奥さんに教えてあげた。以前にくたらしいヒヨについて嘆き合ったことがある人だ。

昼、まだワシはいた。道から見たら二階から見たりした。感謝さえしつづである。

と突然、ピーヒョロロ、ピーヒョロロ。空気を突き刺すような声が空にも町内にも響き渡った。三回、四回。どう見ても鳴いているのは、あいつ。

二分もせぬうち電話が鳴った。「もしもし。教えてもらったワシね、二階から観察したら、今ピーヒョロロって鳴きました」

あの時は、トンビよりも、わしこそ泣きたいわい、と思っただけ。それで「冬空やトンビ鳴く鳴くワシも泣く」と二句詠んでから、眼鏡屋さんへ視力検査に行っただけ。

我に返って再び青空を見上げると、信じられないほど高く、ゆうゆうと舞う二羽の鳥。今年はまだまされへんぞ、トンビめ。

編集後記

- 「敬老の日」に招かれました。初めてでちょっと尻込みでしたが、琴や尺八、ギターの演奏、ビンゴゲームと皆さんと楽しく和やかに交流出来ました。お世話してくださった方々に感謝です。(石田)
- 友人・知り合いには野菜を作っている人が多く、この夏も無農薬、産地直送、とれたての野菜をたくさん頂きました。どれも美味しくご馳走になりました。(中井)
- 「敬老会」に初参加しました。保育園、幼稚園、小学生が真剣にダンスや音楽でオモテナシしてくれウルウルして帰宅しました。幼老交流がもっとあればいい!(橋詰)
- 秋ですなあ。齢を重ねるにつれて地域での交流・ふれあいの味の濃さを感じます。(矢原)
- ラジオ体操した後、四季の自然を感じながら30分程度のウォーキングを楽しんでいます。無理なく強制もなく自然体で参加できる環境が大切です。(水谷)
- ベランダから琵琶湖が見えます。田んぼや畑やビニールハウスがずっと続いていて本当に良い景色です。でも日々変わりゆく草津。いつかここにも高層の建物が建っていくのでしょうか…今は美しい風景を堪能したいです。(大村)
- 家にいても何も始まりません。思い切って外へ出ては、『犬も歩けば棒にあたる』どんな棒が待っているのでしょうか。(大條)

「コミュニティくさつ」は、 みんなで作る まちづくり情報誌です!

市民編集ボランティア

「コミュニティくさつ」は市民の皆さんと共に作成発行しています。本誌の企画、取材、寄稿、配布などを一緒にしてもらえ市民編集ボランティアを募集しています。写真やイラストが得意な方も大歓迎。

- 編集会議(3か月に1回)で意見を出してくれる人
- 取材同行や寄稿をしてくれる人
- 写真やイラストを提供してくれる人
- 自身の町内会や団体メンバーに本誌を配布してくれる人



●申込み・問合せ●

(公財)草津市コミュニティ事業団
まちづくり振興課内
コミュニティくさつ編集部

2015 イルミナ★ワンダーランド

今年は5mのイルミネーションタワーが登場!

(公財)草津市コミュニティ事業団では、今年の冬も東山道記念公園を中心としてJR南草津駅西口の一帯を光の演出で彩る「2015 イルミナ★ワンダーランド」を開催します。

2015 イルミナ★ワンダーランド 11月28日(土)~翌年1月11日(月・祝) 17:00~22:00

点灯式典 11月28日(土) 16:30~
問合せ 草津市公園事務所(ロクハ公園内)
☎ 564-3838

イルミナ★ミニコンサートや甘酒の振る舞い(なくなり次第終了)などがあります。
暖かい服装でお越しください。



「コミュニティくさつ」の経費(企画編集、印刷、折込など)は1部あたり15円です。この経費は事業団が公共施設運営などで得る独自の収益金と草津市からの補助金のほか、市民の皆さんからの寄付および本誌に掲載している企業等の広告でまかっています。

